

# 研究を魅せるプレスリリース文の作成法

～アンケートによる研究ストーリーの抽出と整理～

清水智樹<sup>1</sup>, 井上寛美<sup>1</sup>, 小川正<sup>1</sup>

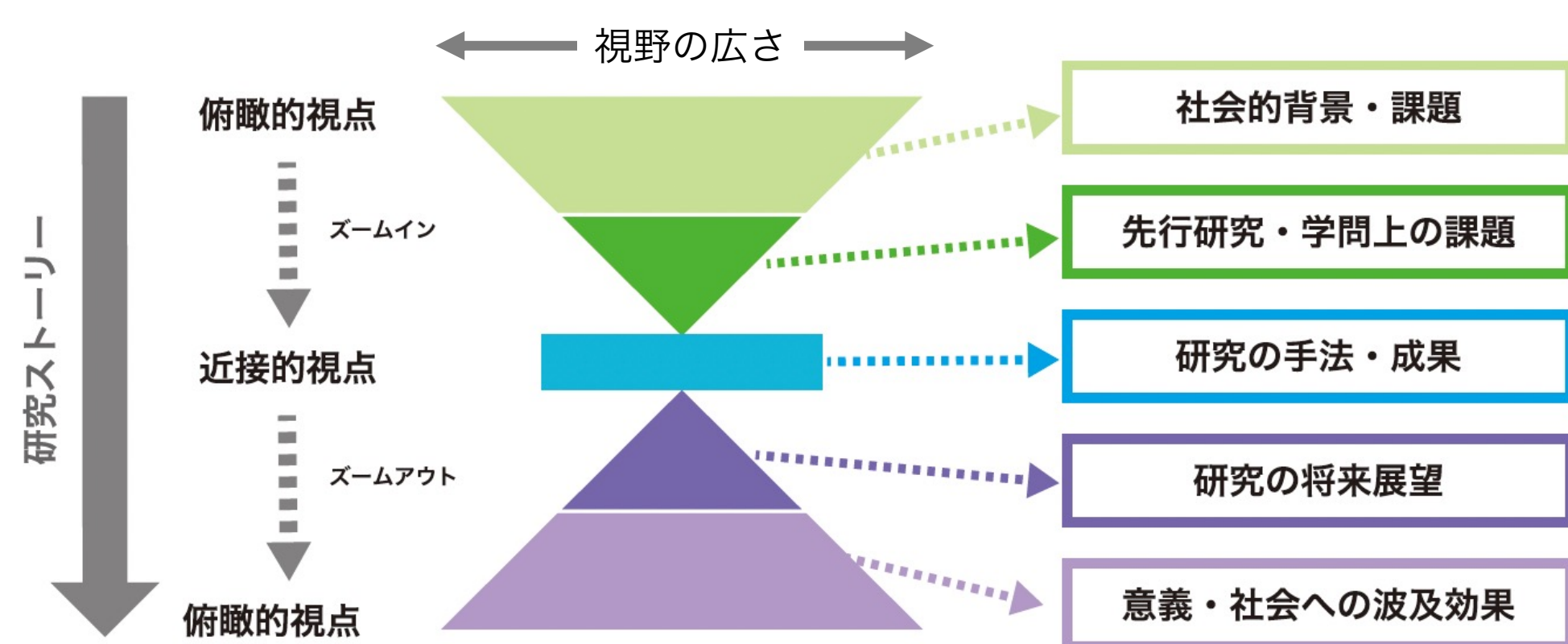
<sup>1</sup> 京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi) リサーチアクセレーションユニット Email: ashbi-acceleration@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

## 背景と課題：プレスリリースによる研究成果発信には「研究ストーリー」を伝える文章が必要

プレスリリースの目的：ASHBiの研究成果を一般社会（記者・市民等の非専門家）にアピールする

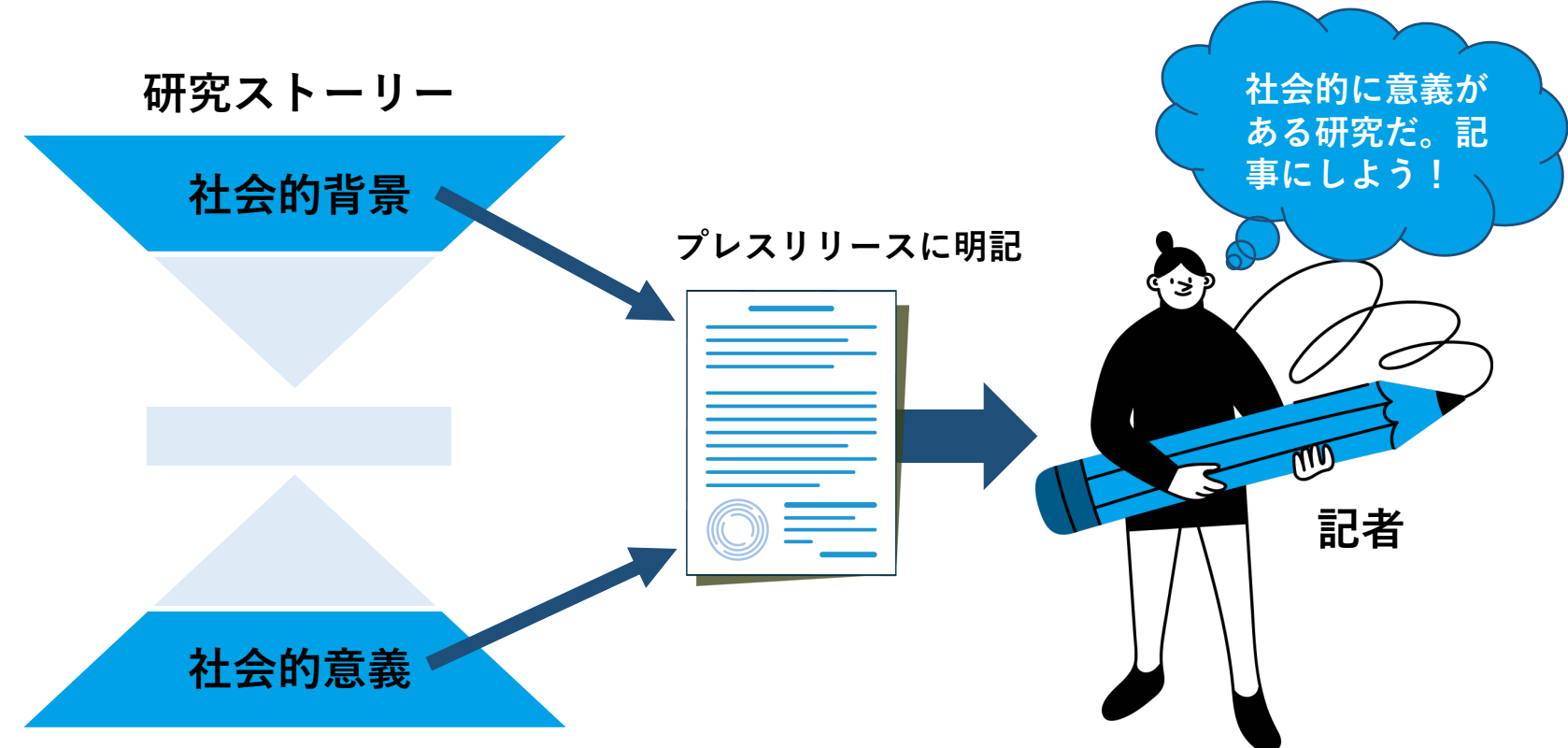
学術研究を非専門家に理解してもらうためには「研究ストーリー」の活用が有効

「研究ストーリー」とは、研究結果のみならず、研究を行うに至った社会的背景や学術的課題、研究の将来展望、期待される社会的意義を含めた研究活動全体を叙述するナラティブ（物語）



社会的背景・意義を十分に説明する必要

論文のプレスリリースの場合、記者や一般市民が研究内容に興味を持ち、研究と社会の繋がりを理解できるように、社会的な背景や意義をも十分に平易に説明することが望ましい。



## 現状のプレスリリース文の課題

課題1：研究ストーリーの叙述が不十分

研究者がプレスリリースの原稿を作成する場合、内容が研究の課題・手法・成果・展望に偏り、社会的な背景や意義が十分に記述されない傾向にあった。また、専門用語を多用し非専門家の読者には理解が困難だった。

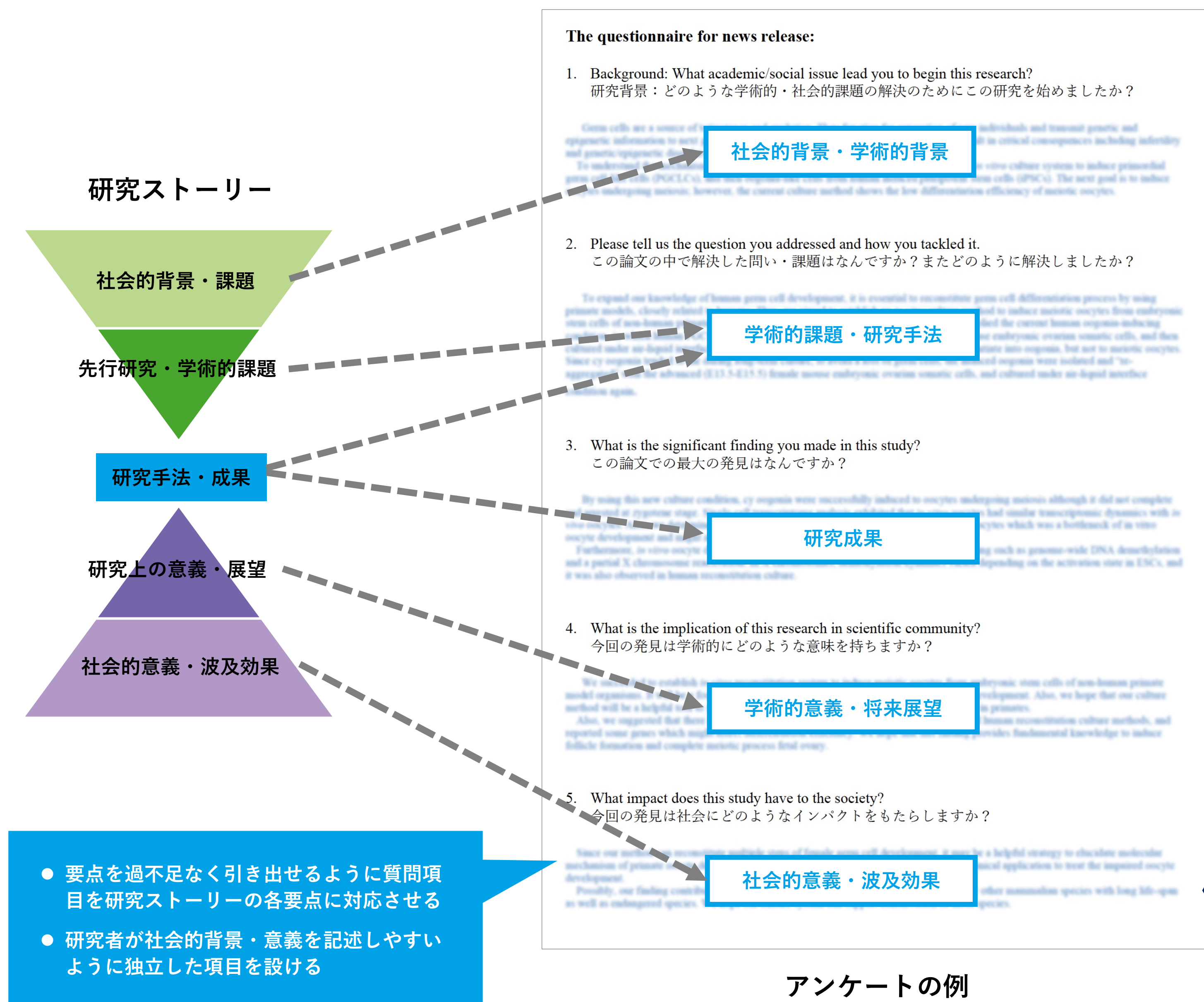
課題2：効果的な原稿作成を支援する体制が不十分

プレスリリースの原稿を研究者が執筆していたため研究者の負担が大きかった。研究者から研究ストーリーを十分に引き出し、効果的な原稿の作成を支援する仕組みづくりが十分に出来ていなかった。

①研究者から研究ストーリーを十分に引き出し、②研究者の負担を軽減するプレスリリース原稿の作成手法を開発・実践する！

## 課題解決の手法：研究ストーリーを抽出するアンケートを実施し、科学ライターに原稿作成を依頼する

- 研究者から研究ストーリーの要点を引き出すアンケートを実施
- 回答が不十分な場合には広報担当者（科学コミュニケーター）が補足インタビューを行う



研究ストーリーの要点を含んだ効果的な文章が完成！

Japanese Researchers Successfully Induce Primate Oocytes In the Lab

完成したプレスリリースの文章

## 成果：プレスリリースを国際社会に発信して研究成果をアピール

EurekAlert!に配信

研究ストーリーを十分叙述した文章は報道に繋がる！  
研究機関のブランディングにも貢献！  
記者は、日々膨大な量のプレスリリースを受け取っている。例えばEurekAlert!だけでも1日約100件のプレスリリースを配信している。その中から選ばれ報道してもらうためには、研究内容を一読して理解できる、研究ストーリーを十分かつ平易に魅力的に叙述した文章が必須！

## 波及的取組：若手研究者向けの広報セミナーを開催

- 研究ストーリーを組み立て、研究成果を効果的に発信する手法を学ぶセミナーを開催！
- 京都大学内外の若手研究者・広報担当者・研究支援担当者に提供！

EurekAlert!のディレクターBrian Lin氏を講師に迎えた国際広報セミナー

ASHBi Research Acceleration Program

ASHBiリサーチアクセレーションユニットでは、論文執筆・研究費獲得・広報/アウトリーチ各分野のスペシャリストが、外国人研究者や若手研究者が研究活動を大きく推進するためのセミナーシリーズ「ASHBi Research Acceleration Program」を随時実施しています。詳しくはユニットのウェブページをご覧ください！



### 参考文献

1 Dahlstrom, M. F. (2014). Using narratives and storytelling to communicate science with nonexpert audiences. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 111(supplement\_4), 13614–13620. <https://doi.org/10.1073/pnas.1320645111>

### 謝辞

本発表を行うに当たり、WPI-ASHBiリサーチアクセレーションユニットの構成員各氏（小川正教授、Sylvros 文部科学省、信田誠氏、井上寛美氏、千種千恵子氏）および澄田裕美助教（京都大学医生物学研究所）のご助言を賜りましたことに感謝いたします。当ユニットの活動は文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム（wpi）」の支援を受けています。